

生涯学習ニュース

子どもたちの豊かな人間性を養うために

平成二十七年度B&G北海道ブロック・スポーツ交流交歓会「剣道の部」が七月十九日に古平町B&G海洋センターで、「水上の部」が八月九日に大樹町B&G海洋センターで開催されました。

この交歓会は、毎年、海事思想の普及と海洋性レクリエーション活動の振興、体力向上、道内各海洋センター・クラブ相互の連携と親睦を目的で開催されています。

「剣道の部」には、小・中学生七名が、団体戦（五名）と個人戦（四名）に出場しました。

結果は、団体戦は予選リーグ敗退、個人戦も全選手一回戦敗退という結果でしたが、どの子どもたちも粘り強い試合を展開していました。



「水上の部」には、小学校カヌークラブ員及び海洋性スポーツ経験者の中学生が、カヌー・ローボート・OPヨットの三競技に十四名出場し、白熱したレースを繰り広げました。結果は、カヌー競技小学生男子の部で、山元優翔君（六年）が優勝しました。ローボート競技は、男子が三位、女子が二位に入賞し、健闘しました。残念ながら、技術不足により競技に出場できなかった児童もおりませんが、練習から本番まで良い経験ができたと思います。来年、再来年に期待します。

16人のALT（英語指導助手）

国際化に伴い義務教育課程も大きく変化しております。グローバル（ものごとの規模が国家の枠組みを越えて、地球全体に拡大している様子）化し外国人と交流する機会が増え、国外の経済・産業の景気状況等も考えなくてはなりません。

視野を広め、国際化に対応できる人を育てるため英語教育が重視されています。本村も平成4年から英語圏の国から、英語指導助手（ALT）を雇用し、語学教育に力を注いで来ました。過去雇用した英語指導助手は16人となっています。アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの出身者で（女性3人、男性13人）、1年から3年間新篠津村に滞在し、小学校・中学校の児童・生徒や一般成人を対象に英語の指導を行って来ました。

仕事の関係で16人のALT全員と接し新篠津村での生活が不安なく過ごせるようにお世話をしましたので、いろいろな人と出会う事が出来ました。来日の目的を確実に持っていた人、日本の文化・自然に興味を持って来た人、漠然とした目的で来日した人様々です。

来日時は異国での生活や、初めての仕事に期待と不安が半々に馴染む

のに時間がかかった人もおりました。しかし「住めば都」という言葉がありますが、皆新しい新篠津村での生活を満喫し新たな環境に順応したようです。

過去のALTを通して西洋人と日本人の違いで、一番大きな違いを感じた点があるとすれば、それは「自己主張」ではないでしょうか。自分の意見を主張する、納得出来ないことは納得するまで意見を言う。

日本人特有の「何も主張しない」「まあまあ」とか「仕方がない」から妥協するということはありませんでした。正しいか否かではなく、自分の考えと違うので納得するまで時間が必要でした。国民性の違い、家庭教育・教育環境の違いから生じることだと思えます。

世界には多種多様な文化・風俗習慣がありますが、まずそれらを受け入れることから始まり、そして自分の考えや意見を主張することは、これからの国際化社会には大切なことだと思えます。

16人のALTは世界各地で今、何をしているのでしょうか、それぞれの自己主張を続けていることを願うものです。

